



被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ  
**東北こそだてレター (被災地の今...)**



2017/03/11 配信 vol.44

～ 震災から7年目を迎えて ～

◆ **支援実績** (2017/2/28 現在)

＜支援母子数＞

・プロジェクト開始より累計 21,910 組

＜支援先＞

東北沿岸部・九州等被災地の支援団体  
東京への避難母子

＜現地活動内容＞

妊産婦教育/育児母乳相談 / 母親のメンタルケア /  
母子サロン / 障がい児向けサロンなど

＜その他支援＞

母子支援者養成に関わる補助

みなさま、こんにちは。一般社団法人ジェスペールです。

2011年3月11日の東日本大震災発生から、6年が経ちました。改めて、被災した方へのお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。

心の中で震災による経験を整理できている方、まだまだ震災が及ぼした様々な衝撃から脱することができない方、色々な方がいらっしゃると思います。

社会を見渡してみても、表面的には東日本大震災の話題は3月前後にならないと出てきませんが、今回ご紹介するように住友生命が被災地で子育て支援を行う団体を表彰し続けていたり、震災が及ぼした悪い影響がなくなるよう支援を続けている組織や人はまだ多くいらっしゃると思います。

そんな中でジェスペールの活動も続けることができ、今年の3月11日もこのようにメールマガジンを配信することができました。支援して下さる方には心からお礼を申し上げます。

今回は、代表の宗が3月11日を振り返るとともに、住友生命の未来を強くする子育てプロジェクト受賞のご報告です。

被災地での「これから」と「今」、そして「未来」。どうぞ最後まで、ご覧ください。

◆ **相馬助産所が住友生命の震災復興応援特別賞を受賞**

[http://www.sumitomolife.co.jp/about/csr/community/mirai\\_child/child/2016/](http://www.sumitomolife.co.jp/about/csr/community/mirai_child/child/2016/)

このたび、相馬助産所(代表 宮原けい子助産師)が、住友生命の「未来を強くする子育てプロジェクト」の「スマセイ震災復興応援特別賞」を受賞しました。

震災後からこれまで、長期間に渡り福島という地域の子育て環境の課題に寄り添う形で母子を支援し続けていることが評価されました。

「未来を強くする子育てプロジェクト」は、より良い子育て環境づくりに資する活動を行い、成果を上げている個人・団体が対象です。

子育て支援に資する諸活動を継続的に行っていること、活動内容が社会に認められロールモデルとなりうるものであることなどが受賞を決める際に重視されます。



加えて、震災復興応援特別賞の対象については、東日本大震災などの大きな災害における被災者の支援、復興のために子育て支援活動を行って個人・団体が授与されます。

第6回以降、毎回ジェスペール及び関係している団体が受賞しています。

第7回以降の受賞は、第7回目から新設の震災復興応援特別賞の枠での受賞です。

- ・第6回 一般社団法人ジェスペール
- ・第7回 ベビースマイル石巻の荒木代表（別団体での受賞）
- ・第8回 いわて助産師による復興支援まんまる
- ・第9回 NPO 法人こそだてシッブ
- ・第10回 相馬助産所（今回）

ジェスペール及び関係団体の震災直後からの母子支援活動が、実際に多くの母子を支えることができたこと、加えて社会から必要性を認められたこと、などを今年も受賞により形として示すことができました。

### ◆東日本大震災から丸6年を迎えて（ジェスペール代表 宗祥子）

[http://tohokumama.org/activity\\_report/soma/](http://tohokumama.org/activity_report/soma/)

2017年3月11日は、東日本大震災から丸6年を迎えます。

さまざまな問題を抱えながらも各地域で支援活動が展開され、東北沿岸部や福島県では子育て中のお母さんたちを支える活動が展開されています。大変な状況の中でも、たくましく子育てをしている母親たちを支援している助産師を紹介します。

今回ご紹介する宮原けい子さんは、福島原発から約40キロの位置にある相馬市で、相馬助産所を運営されています。その活動は、福島原発から約25キロに位置する南相馬市から相馬市、新地町に及びます。

このたび宮原さんが運営する相馬助産所は、住友生命が行う《未来を強くする子育てプロジェクト》の震災復興応援特別賞を受賞されました。授賞式に出席するために上京された宮原さんから直接、ご自身の活動についてお伺いすることができましたので、ここでご紹介します。

\*\*\*\*\*

#### ◆◇震災前後の状況

宮原さんは、相馬市にある公立の病院の産婦人科に長年勤務していました。しかし地域の中で母親支援を行うため独立したいと10年前から考えており、震災直前の2011年2月26日に病院に退職届を出し、6月末日で退職することになっていました。

そこに東日本大震災が発生し、福島県に暮らすお母さんたちはたいへん大きな不安を抱えて過ごすことになりました。まさに宮原さんのような地域で母親を支える存在が必要となったのです。

乳幼児を抱える母親の中には、この時期に遠くに避難された方もいました。しかし、多くの方々は従来から住んでいる場所から離れることができず、中でも小さなお子さんをお持ちの方は大きな不安を持っていました。子どもを家の中から出すことができない方も多くいたと聞いています。宮原さんはその当時を思い出し、お母さん方がとても暗かったと話していました。

#### ◆◇宮原さんの震災後の活動

そのような状況の中から現在に至るまで、宮原さんは福島県助産師会からの依頼を受けたこともあり、訪問活動やママサロンを開くなど、地域の母親のためにできる限りの支援を続けています。夜間でも相談の電話があった際は常に対応し、不安を抱えるお母さんたちを支えています。活発なママサロンの活動のおかげで、この地域のお母さんたちは明るさを取り戻しています。



## ◆◇広がる活動

最近では宮原さんの活動は、様々な障害を抱えるお子さんを持つお母さんたちにも、広がっています。大きな障害をかかえたお子さんを亡くしたお母さんとかかわっていたことがきっかけで、同じ悩みを持つお母さんたちが話できる場をつくりました。

その集まりは【おひさまクラブ】と呼ばれ、話し合いを持ちながら、月1回の定例のほか、調理実習や農家体験、リトミックリズム体操、季節行事など、様々な催しをしています。部分的に行政とつながり、地域ぐるみで少しずつ広がりが出てきています。

## ◆◇障がいを抱える子の母を巡る東北地方の状況

震災以前にも同様の問題は地域の中に存在していたはずですが、地域で母親を支える存在がなければ、支援する手立てがなかったのです。

東北沿岸部、大船渡市や陸前高田市でも同様の問題がありますが、悩みを抱えたお母さんが集うところまではなかなか行っていません。障がいを抱えて外出するのが難しく、また距離が相当離れていることも災いしています。

## ◆◇【おひさまクラブ】に参加する母親たち

障がいを抱えたお子さんをお持ちのお母さん方は、【おひさまクラブ】を通して明るくなってくるそうです。

お子さんたちの障がいは様々です。自閉症、ダウン症、心臓疾患、胆道障害、聴覚障害など程度や種類は異なるものの、健常児を育てているお母さんには言えない悩みをここでは話すことができ、お互いに話をすることで解決できたり、心が軽くなったりしていくとのことでした。

## ◆◇おわりに

地域で活躍する助産師は何かできるのかを、現場にいるからこそ、直接お母さんたちに寄り添うからこそ、宮原さんは把握することができます。そしてその実感をもとに今も活動し続けています。

ジェスパーはこのような活動を今後も支援していきたいと考えています。被災地で活動する助産師の活動を、これからも多くの方々にお知らせし、支援をお願いする所存です。

引き続きご支援よろしく願いいたします。

## ◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスパーの「東北こそだてプロジェクト」は、被災地の母子を支援する助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記サイトをご紹介ください。

<http://tohokumama.org/donation/>

また、皆様からの励ましのお声も、現地の助産師や被災地で子育て中のお母さん、ジェスパーメンバーの力になります。ご寄付いただく際に励ましのお言葉を添えていただいたり、当メールマガジンへのご感想などをお寄せください。



**発行者：一般社団法人ジェスパー**

公式ホームページ：<http://tohokumama.org/>

Twitter：<https://twitter.com/tohokumama>

お問い合わせ先：[info@tohokumama.org](mailto:info@tohokumama.org)

Facebook：<http://www.facebook.com/tohokumama>